

ACE 新春講演会開催!!

事務局 吉田

去る1月11日、それぞれ海外を視察されてきた、野口・桜庭両氏の報告会をかねて、「21世紀を切り拓く、北海道のテクノロジカル・リテラシー教育」講演会を開催いたしました。

そもそも、ACEの研究会だけではもったいない発表、ということで、一般にも広く呼びかけ、各方面から多彩な顔ぶれを迎えて新春から意欲的な会となりました。

議事録

【武田】自治体や教育委員会などがネットワークや情報機器の整備を進めているが、なぜいまになってこういった動きが活発になっていったか。冷戦後の社会構造の変革に伴って、単純に国単位だけで考えることが難しい問題が増えてきたことで、民の力が注目されるようになってきた。民同士の情報手段がネットワークだ。ネットワークがひとを結びつけることが出来る。

日本以外の情報の環境がどのようになっているか、海外の視察をしてきたお二人のお話を聞くことにした。



無理いって講演させちゃってすいません。

社会教育総合センターの桜庭さんは社会教育の現場で情報化に取り組みされている。

道都大学短期大学部の野口先生はCiscoのネットワーキングプログラムなどを中心に、情報教育の分野でネットワークがどのような役割を果たすかを推進されている。

【桜庭】10月の末から11月の頭まで、世界青少年育成協会のEU交流ということで回ってきた。学校と公的機関を歩き、社会教育とシステム関連について見てきた。大まかなところはWebのページを見ていただければわかるようになっているが、そこでは見ることの出来ない「印象」の部分などをお話したい。

東西ドイツの統一やEUの動きなどによって、公的な機能がいろいろと移行している途中である。

ヨーロッパは地続きで往来自由だが、国同士のプライドなどは厳然と存在しているし、気候もそれなりに違う。気質もそれぞれだ。

経済を中心に、欧州は先行き不安で混沌とした部分が取りざたされる。移民の大量流入と失業率の増加で、社会教育の役割も重要視されている。

欧州は幾度かの戦争の歴史を社会教育に生かしている。また、サッカーなどのスポーツも意義付けをして取り入れている。

(ドイツ、フランスの教育システムの説明)

日本では方向性は見えているが、さざ波、という雰囲気だが、ヨーロッパでは方向性もはっきり見えていて、それを追い風に



桜庭さんがNPで講演すると、いつも最初のCOTFを思い出します。

してしっかりと進んでいる。根底に生きているのはヨーロッパ人のアイデンティティという感じだ。

【野口】ここ2カ月あまりの間に、ネットワーク教育について日本でもいろいろと動きがあったようだが、視察に行く前後には新学習指導要領案が発表になり、その中にも様々な言い方で、今回視察してきたような内容が盛り込まれていた。

2001年までには日本の小中高등학교がインターネット接続をする、ということに計画が前倒しになったが後二年間でなにか具体化できるか、協力して進めていきたい。

サンフランシスコとデンバーで、私立公立取り混ぜて視察してきたが、結論からいうと、日本の取り組みは10年遅れているという印象を受けた。各校を訪れるとその度にびっくりさせられるような取り組みが行われている。

情報の流通形態が変わっていくことで、仕事の在り方も変化していく。それに適応した教育を進めていくことが着目されている。

いわゆる平板なコンピュータ教育ではなく、「テクノロジー教育」という言葉を使っているが、倫理観などネットワークに付随する様々な問題を取りざたすることで、新たにネットワークに携わる人材を育成していくことを考えている。

コンピュータ教室にコンピュータがある、という感じではなく、普通の教室をはじめ、様々な専門授業をする教室にすべからずコンピュータがあって、ネットワーキングされている。語学などはCD-ROMの教材を使っていたりする。

また、生徒の問題解決能力というのを非常に重視していて、専用のシステムを使ってフローチャートに表された学習到達点

に基づき、生徒自身が自分たちの学習スケジュールを実践していく。また、それに伴ってプレゼンテーションの能力が重視されている。

一方、教師のためのテクノロジー教育も重要な要素で、やはり様々な機器を訓練なしで指導できる人間が最初からいるわけではなく、そういったひとを要請する必要が出てくる。また、メンターと呼ばれる先導役をつくって、先進的な技術の導入を推進していくことにも力を注いでいる。

(写真の説明)(ビデオの説明)

コンピュータが特別扱いされておらず、自然に教室にとけ込んでいる状況を見て、「コンピュータを学ぶ日本、コンピュータと学ぶアメリカ」という実感を強くした。

単なるコンピュータ教育に終わらない、今後のテクノロジー教育をいろいろな人間の力を合わせて進めていかなければならない。

ディスカッション

【武田】国からも予算がある程度ついて、いままでは「お金がなくて出来ない」だったが、これからはそういったいいわけが通用しなくなる。これから現場はどう変わっていくのか。

【中央小 砂田】現場では総合学習などにおいて心配事の方が強くなってきている。いろいろとこどもの側に要求が出てくれば教員の側にも意欲が出てくる。もちろん単独ですごいことが出来るわけではなく、様々な方々のサポートが必要になってくる。

【標茶中 村田】去年からネットワーク環境が町内にはいつてきたが、作り方としてはメンターを育てていくという似たような環境を作り出している。アメリカは一度取り組みをはじめると、ものすごい勢いで実現に向けて進んで行くが、日本では様々な組織がバラバラの方向を向いている。それ自身が悪いことではなく、良いように作用することもあるのだが、もっと家庭なども含めていろいろなところを巻き込んでいく努力をすべきではないか。

この後、会場を移して例年通り新年会をにぎやかに開催しました。今年も各人がいろいろな課題や目標を据えながら、連携して活動を行っていくという予感に満ちあふれた会になりました。

この場をお借りして、ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

第9回高校新聞制作技術 講習会大成功！！

札幌星園高校 高瀬敏樹

ACEとしても2年ほど前から協力している講習会です。1月14日(金)に札幌市ネットワークプラザにて24名の参加者のもとで行われました。今回は理論編を中島光信氏(北海道新聞社整理部次長)が、実践編を我がACE北海道支部事務局の青柳貴文氏と吉田哲也氏(北海道新聞社情報開発本部)が担当

してくれました。(講師自らが機材の搬入からセッティングまでしなくてはならない、人使いの荒い講習会なのです)



いや、やって教えながら怒ってるわけじゃあないですよ。

中島氏は「今までの新聞づくり・これからの新聞づくり」と題して、COOLな話を聴かせてくれました。特に、「インターネットを利用して学校新聞を配信することにより、校内新聞からの脱皮を図ることができる。それぞれの地方の情報を発信することは意味のあること。」との提言には大いに励まされました。また、当日の朝刊を題材にした紙面づくりの解説は具体的で、とても参考になったと思います。

吉田氏は「学校でできるインターネット新聞」と題して、新しいメディアと新聞との関わりを、過去の経緯からわかりやすく解きほぐし、インターネットの有効性をわかりやすく解説してくれました。校舎と校長の写真が載っているだけのようなホームページをバッサリと切り捨て、メール新聞を「安価で力のあるメディア」として、学校新聞への広がり期待する熱い主張には本当に感動しました。

続いて行われた実習「メールを利用して学校新聞を作ってみよう」は、青柳氏が中心となって進められました。NP内に特



ご旅行前の忙しいときにすみません事務局長。

設した8台のパソコンでメール新聞作成し、配信しようという企画ですが、電子メール自体初めてという参加者も多かったのですが、何とか時間内に完成して配信するところまで全員が辿り着き、成功裏のうちに終了しました。(メールのやり取りに大はしゃぎの参加者も...)

今回の講習会に参加された先生方を中心に、高校新聞界に新しいムーブメントが起こる事を期待したいと思います。

1999年 ACE 総会 & Expo 近づく

発寒中 荒島

本年度も Mac World Expo'99 in TOKYO が幕張メッセで開催されます。iMac の好調さや新 G3 の発表もあり、例年以上な盛り上がりが見込まれます。

ACE も昨年に引き続き、展示ブースで「ACE ブース」を開催する予定です。北海道支部は最終日の前半が担当になっています。他の支部の状況によっては引き続き後半も「北海道の時間」になることが予想されます。

北海道支部からのプレゼンテーション内容は、

1. ひらがな変換フィルター(高木氏)
2. レイティング&検索(村田氏)
3. パーチャル雪まつり '99(武田支部長)
4. アメリカのテクノロジーリテラシー教育(野口氏・由水氏)
5. デジタル雪まつり新聞(吉田氏)

の5つを予定しています。



最終日には幹事会、総会そして懇親会と続きます。昨年度の懇親会ではスペシャルゲストとしてあのスティーブ・ウォズニアク氏をお招きしました。今年の MWE の基調講演がスティーブ・ジョブズ氏であることから懇親会の席にひょっとするとひょっとしこの超大物ゲストの登場となるかもしれません。

以下、今年度の Expo での動き等の案です。成果と結果については次号 NewsLetter をお楽しみに！

今世紀最後の生ジョブズ?
iCEO 来日

I Mac World Expo ACE ブース

1. コンセプト

(1) 昨年度の ACE ブース

MacFanExpo (大阪) で、はじめて ACE はブースを展開した。続く、MacWorldExpo98 (東京) でも 2 コマのブースを確保し、4 日間にわたり多くの教育に関心がある方の来訪をいただいた。ACE コンタクトと名付けて、学校や先生方とのコンタクトを企画。昨年は、学校の課業日にあたっていただけかわからず、目標の 100 校を大幅にこえ、期待と関心の高さを感じた。

(2) ACE 資源の分析

- ・ターゲットは、学校関係者はもちろんだが、企業、学生など教育に関心のある人は誰でも。
- ・エースの最大の財産は、人。ヒューマンネットワークである。
- ・今年度は、ブースは 1 コマ。設置にかかわる費用も ACE 負担。

(3) Expo での ACE ブース展開

- ・昨年の形をもとに、早め早めにプランや状況を公開していく
- ・ACE コンタクトの対応をしっかりとさせる
- ・協賛企業を募り、協力態勢をしっかりとさせる

2. スケジュール

日にち		前 半	後 半
		10時～14時	14時～18時 (最終日は17時)
17(水)	事前準備		関 東
18(木)	EXPO開幕	関 東	関 東
19(金)		九 州	上越・関西
20(土)	EXPO閉幕	北海道・九州	関西・北陸・東北

3. 内容

(1) 基本

- ・ブースをポスターセッションとプレゼンセッションの2つに分ける。

(2) ポスターセッション

- ア ACE に関するパネルを展示
- イ 入会案内とちらしなど配布
- ウ 100校コンタクト リスト & マップ
- エ 会場内教育関連情報

(3) プレゼンセッション

- ア ACE の CM
- イ プレゼンバトル
- ウ コーディネーター集合

これからの情報教育、ネットワーク教育には何が必要なのか、どうしたらいいのかを考える場を作ります。また、エキスポ後も情報交換をつづけていくヒューマンネットワーク作りをめざします。

II 諸会議関係

1. 日程

20日(土):幕張プリンスホテル

時 程	会 合	準備・進行
14:00～16:00	幹事会	矢野事務局長
18:00～19:00	総 会	関東支部 佐藤道幸
19:00～21:00	懇親会	西澤関東支部長

2. 議案等

- ア 98年度収支報告
- イ 98年度会員数の増減
- ウ 98年度各支部活動報告
- エ 懸案討議事項
 - a 会報制作体制について
 - b 事務局運営費について
 - c ACE Net の ID 管理について
 - d POEM '99 の協力について
 - e 学生会員 / ファミリー会員について
 - f 今後の POEM 担当について

オ その他

- a 99年度各支部活動計画
- b 99年度収支計画

今年の POEM 開催予定地でもある東京で、企業や学校関係者にどのくらい活動をアピールできるか、楽しみです。(去年はデジタル雪まつり新聞フロッピー配って歩いたっけ)

北海道支部では例年通り、一大ツアーを組んで、このイベントに参加、協力をします。また、恒例の秋葉原ジャンク、パーツ探検隊や神田の蕎麦屋で呑んだくれのオプションも用意されているようですので、皆さん可能な限り是非ご参加、あるいは合流いたしましょう。

公立学校接続計画

文部省から「当初、平成 15 年度までとしていた小学校接続計画を 13 年度までにすべての小学校が接続できるよう 11 年度から地方交付税措置が講ぜられる予定となったこと。したがって、各市町村教育委員会は学校における利用環境が計画的に整備されるようにすること。」という通知が各教委に出たようです。これは先進的教育用ネットワークとは別ものです。通知の流れは、北海道は文部省 道教委 地方教育局。札幌は文部省 市教委です。

なお、平成 11 年度の公立学校におけるインターネット接続にかかる具体的な財源措置については後日通知があるとの事です。計画の概要は以下のとおりです。

趣旨：21 世紀を担う子どもたちに、情報の活用能力や国際性を養うため、すべての学校をインターネットに接続し、その積極的活用を推進する。

具体的措置：11 年度においては、公立学校のインターネット利用にかかる通信費及びインターネット利用料等（小・中学校については 1 校あたり年額 13 万 2 千円、高校・特殊教育諸学校年額 15 万 2 千円）が地方交付税により措置。

なお、1 校あたりの年額については、11 年度から学校向け割引料均等を適用し積算。

「整備計画案」：11 年度は、小学校 7300 校、中学校 2300 校、高校 800 校、特殊 200 校。来年度も同数。11 年度の所要額は 26 億円。

詳細は文部省の Web にて。

<http://www.monbu.go.jp/news/00000307/>

バーチャル雪まつり雪像案決定！

今月末から制作を開始するバーチャル雪まつりの雪像案が決定しました。これを元に 1 月 30 日（土）から大通西 7 丁目バーチャル雪まつり広場で制作を進めます。この模様はライブカメラ <http://www.hbc.co.jp/vsf-cam99.html> で逐一見ることが出来ます。テーマ：「絶滅する生き物と地球」



の生き物が地

球を支えているというデザインにしました。地球には人間の形が掘（ほ）り込まれています。地球の経線（けいせん）や緯線（いせん）がなぜか檻のように見えます。これは、環境（かんきょう）を破壊（はかい）する人間への警告（けいこく）をこめています。

この雪像のアイデアを作るために、地球には絶滅（ぜつめつ）した、またはしかけている生き物がたくさんいるということを知りました。そんななかで、いろいろなアイデアがありましたが、絶滅しようとしている想像（そうぞう）

球を支えている

編集後記

これからはね、デザインの時代だとおもうんですよ、デザイン。ものごときちんとしたデザインがないと、ダメ。社会や教育、企業やメディアをいかにデザインしていくか、皆さん頑張りましょう。（吉田）

3 年ぶりに風邪をひいてしまいました。インフルエンザだったかどうかはわかりません。完治に 10 日間かかりました。その間に PowerBook2400/180 がいかれてしまいました。ぐずん(;;)。CPU の障害です。で、修理費など考えた結果即決で G3Booster240 にしてしまいました。むははは、風邪も治ったし快調快調(^)。でも、しばらくおとなしくしていなければならなくなった・・・iMac も遠のいたなあ。（野口）

遅れた新婚旅行でイタリアに行ってみりました。3 都市を巡る日程中、なんとかメールを取ろうと毎晩トライしていましたが、遂に全敗、パソコンは大きな手荷物に成り下がってしまいました。ホテルの有線通信環境は思いのほか悪かったです。公衆電話も日本のようにデータ通信ポートなんぞは決して付いていません。ヨーロッパ各地へお出かけの際は、ノキアの携帯電話とモバイルカードをご用意ください。（青柳）

昨日から今日にかけて温泉を 3 軒はしごして今編集会議に到着しました。来週からはバーチャル雪まつり制作が始まります。2 月には MacWorldExpo と ACE 総会です。学校を休んでばかりでスイマセンね。でも、こうして種まきが続けているとききっといつかは大きな実がなるに違いないです。さて！もっとがんばりましょうか！！（荒島）

今年は C I S C O というインターネット機器のメーカーと協力して、授業にネットワーキングを取り入れていきます。（シスコ・ネットワーキング・アカデミー）また、現在のワープロ室を i M a c を中心に、マルチメディア教室として改修するので、ネットワーキング、D T P 他、多彩な展開が可能になります。いっそう充実した授業空間ができそうでとても楽しみにしています。完成の暁にはお目にかけたいと思っています。（由水）

BeOS をインストールして日本語でメールを書けるようにカスタマイズしました。Be の内部は UNIX(Bash) であり軽快な OS です。これからどんどん普及することを望みます。（田中）

また冬がきて、春が来る。雪が降り、風が吹く。雪まつりがあり、鍋があり、熱燗がうまい。また、夏が来て、秋が来る。きのこがうまくて、温泉がいい。5 0 回目の雪まつり。インターネットが世間をにぎやかにして 4 回目のバーチャル雪まつり。そう、元祖バーチャル雪まつりが今年も大忙しだ！大通り 7 丁目には、世界の子供のアイデアが集結する。（武田）

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999 年 1 月 27 日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西 3-6

北海道新聞社 情報開発本部内（担当：青柳・吉田）

TEL 011-210-5801 FAX011-210-5532